

大豆だより

第3号

令和8年7月28日発行
西村山農業技術普及課
TEL：0237-86-8301

開花期のかん水で乾燥ストレスを防止し、収量アップを！

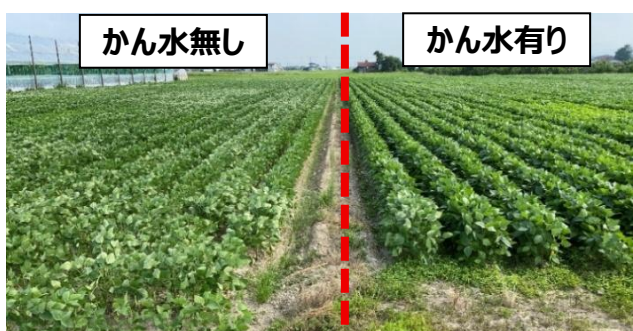
間もなく大豆の開花期を迎えます。本年は東北地方の梅雨明けは未だ発表されておりましたが、8/2以降は高温で経過する予報のため、土壌の乾燥にも注意が必要です。

大豆は、**開花期～登熟初期にかけて多量の水を必要**とします。水分が不足して乾燥が進むと、花数の減少や落花、落莢による結実数の減少、百粒重の低下など、収量に大きく影響します。

開花期に**無降雨状態が続く場合には、かん水**を実施することで、着莢数の向上や粒の肥大を図ることができます。

1. かん水のタイミング・時期

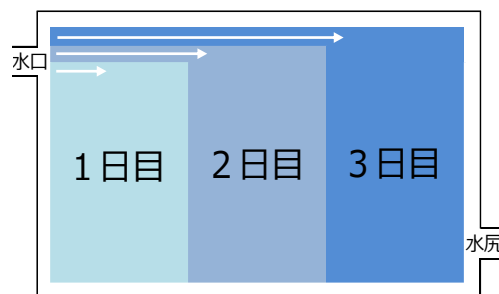
- ・開花期以降に土壌の乾燥が続くとき
- ・降雨の見込みがなく、晴天が1週間程度続き、土が白く乾燥した場合
- ・日中に大豆の葉が立ち、半分以上の葉で裏面が見えるようになった時期
- ・乾燥が続き土壌表面に亀裂が生じたとき



写真：かん水2日後の圃場の様子（R5.7.30）
右側のかん水圃場では、葉の裏返りは見られない

2. かん水の方法

- ・暗渠を閉じてほ場周囲の明渠や畝間を利用してかん水し、水分を補給しましょう。
- ・かん水は朝夕の涼しい時間帯に行い、ほ場全体に水が行き渡ったら速やかに排水します。
- ・30aを超えるほ場では、3日間に分けて徐々にかん水を行いましょう。
- ・過度のかん水や排水が不良なほ場でのかん水は湿害を招くため、注意が必要です。
- ・この時期は、他の作物も水を必要とする時期のため、近隣の状況にも十分配慮した上で、かん水可能なほ場で実施しましょう。



図：畦間かん水方法
※30a規模の圃場では3日間に分けて徐々にかん水する

農作業事故と熱中症に要注意！声を掛け合い、農作業事故を防止しましょう！